

八勝館について

○ 明治の和風別邸から発展した料亭の数寄屋建築群

はっしょうかん
八勝館 9棟

げんかんとう まつ まとう みゆき まとう しんざしきとう きく まとう いなかや せいもん にしもん なかもん
玄関棟、松の間棟、御幸の間棟、新座敷棟、菊の間棟、田舎家、正門、西門、中門、土地

所在地：名古屋市昭和区

所有者：株式会社 八勝館

指定基準：意匠的に優秀なもの、歴史的価値の高いもの

【概要】

八勝館は、名古屋市街東方の丘陵地に所在する料亭である。明治時代中期に材木商柴田^{しばた}孫助^{まごすけ}の別荘として建設され、明治時代後期からは料理旅館を営業した。その後も建物を整備し、戦後は愛知県国体への天皇行幸に備え、1950年に「御幸の間」が堀口捨己^{ほりぐちすてみ}¹によって建設された。

起伏に富む疎林^{そりん}に建つ各棟は、明治期に遡る希少な数寄屋^{すきや}²の別邸建築を基盤として発展したもので、良材を駆使して多様で優れた和風意匠を集成する。また戦後の堀口の設計部分は、直線的構成や色鮮やかな建具^{たてぐ}³など、伝統意匠と現代建築の統合を目指した堀口の理念を体現して価値が高い。

堀口捨己¹（1895～1984年）岐阜県出身の建築家、学者。数寄屋造りや茶室の研究者としても有名。主な作品に常滑市陶芸研究所、明治大学和泉第二校舎等がある。

数寄屋² 日本の建築様式の一つであり、茶室建築の手法を取り入れた住宅様式のこと。

建具³ 戸、障子、襖、扉などの可動性の間仕切りのこと。



八勝館 「御幸の間棟」内観（株式会社 八勝館 提供）